



の と し た ー



NO. 3

<発行元>
西宮市社会福祉協議会
すまいるプロジェクト
TEL:0798-23-1140
FAX:0798-23-3910

2025年3月発行

ボランティアアワゴン 活動報告

令和6年11月13日(水)~14日(木)

西宮市民ボランティア7名と社協職員3名が地震と豪雨災害の二重被害の支援のために輪島市へボランティアアワゴンを走らせました。



豪雨被害の状況



家屋周辺通路の泥かき

職員の声



9月の豪雨災害による被害だけでなく、地震被害の支援も多く残っていることに驚きました。報道ではわからない被災地の状況を痛感する機会となりました。

輪島市の状況から考えると、ボランティア支援はまだまだ必要であるように思います。

西宮で輪島市を含め被災地のことを忘れず、長く寄り添っていくことを大切に、市民の皆さんと一緒に活動を続けていきたいとします。



復興支援 仮設住宅への訪問&交流

With 関西学院大学・NVNAD(日本災害救援ボランティアネットワーク)

令和7年2月14日(金)~16日(日)

関西学院大学(ヒューマン・サービス支援室)とNVNAD(日本災害救援ボランティアネットワーク)が七尾市の仮設住宅で行う交流イベントに社協職員も同行しました。学生の訪問を喜んでもらい、バレンタインイベントや自分のまちの良いところを語り合う交流会が開催されました。



職員の声

「自分のまちの良いところ」を話す中で、被災地の今を届けることも大切ですが、被災地の良い所を発信してより多くの人に現地へ足を運んでほしいという声も聞くことができました。

私たちは「被災地である能登」を知るのではなく、「行きたくなる能登」のことを発信して行くべきだと思いました。

仮設住宅をまわって
イベント等への
よびかけ ▶



▲交流会では、小学生も参加し多世代の交流になりました。

能登半島地震から1年 阪神淡路大震災から30年 今、あの時を振り返る

次の世代に
繋ぐ



『NVNAD シンポジウム』

主催：NVNAD(日本災害救援ボランティアネットワーク)
2025.1.19 西宮市役所東館

30年前の1月17日に出生した語り部メンバーの中村さんをはじめ、当時子どもだった4人のパネラーが震災や30年間の経験を語られました。

子どもは、大人と同じ震災を体験していても、震災体験が周りから理解されない、体験が軽く捉えられやすかったことなどを語られました。

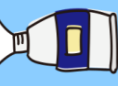
また、「30年の節目」と言われていますが、被災者には節目は無くずっと続くものです。西宮にとって30年は節目ではなく若い世代につないでいくことが大切であり、東日本、熊本、能登その他の被災地にも細く長く寄り添っていくことが大切であると心に強く思いました。

阪神・淡路大震災を経験された方から高校生まで参加があり、国内で起きた様々な災害を一緒に振り返りながら自分たちに出来ることを考える機会となりました。

参加した高校生からは「被災の経験を生で聞く機会が大切だと感じた」「学校で行っている避難訓練を見直す必要を感じた」など、未来に希望を感じる心強い意見がありました。

多世代が地域づくりや防災について真剣に考える姿が見られ、1人ひとりが地域の当事者として考えていくことの大切さを学びました。

多世代で
語り合う



『にしのみや防災 フォーラム2025』

主催：にしのみや防災フォーラム2025実行委員会
2025.1.18 若竹公民館



住民同士で
語り合う



西波止町自治会 防災のつどい

主催：防災のつどい実行委員会・西波止町自治会
2025.1.18 西波止会館



「節目の年に、災害の体験と教訓を忘れず分かち合いたい。」そんな地域の方の思いから、西波止会館で“防災のつどい”が開催されました。

町内の住民さんだけでなく、近隣の地域団体や事業所・施設等にも声を掛け、当日は35名が参加。

震災写真展、非常食の試食の他、参加者の実体験に基づく話を語り合う場面もありました。

一人ひとりの経験や思いを聞き、分かち合うことを通して、何かあった時お互いに助け合える、ご近所さんとのつながりが広がっています。